

Responsible Care 2021

レスポンシブル・ケア報告書



関西熱化学株式会社
Kansai Coke and Chemicals Co.,Ltd.



2021年10月
関西熱化学株式会社
取締役社長

小林 英信

「レスポンシブル・ケア (RC) 報告書2021」発刊にあたり一言
ご挨拶申し上げます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、
企業活動においても様々な制約の中での活動が強いられるとい
う、最近では経験をしたことのない1年となりました。科学技術が
これだけ進化した世界においても、自然の力というものには簡単
には乗り越えられないということを再認識しました。本年度に入って
ワクチン接種の本格化などの対策も進められつつありますが、ま
だまだ先の見えない状況が続いています。

このような情勢下において、「人を財とし、自然を財とし、新た
な価値を創造する」を経営理念とする関西熱化学グループでは、
お客様や従業員、そしてご家族の皆様の安全と健康を守るとい
う人間尊重の理念を第一に、感染予防対策に万全を図りながら事
業活動を継続してまいりました。

関西熱化学グループは、ものづくり企業として核となるコークス
製造技術を基軸に、炭素材・生活環境製品・飲料水・電力など
の製造・販売に加えて、住宅賃貸・飲食施設・ソフトウェア開発・
精密洗浄・分析などの各種サービスなどの提供を通じ、社会貢
献という責務を果たしてまいりました。

本年度、関西熱化学グループは、新たな中期経営計画「Go
Forward 25 明るく 元気に 前向きに」をスタートさせました。
「新しい生活様式」や「新しい働き方」が問われている今、中期
ビジョンとして掲げた「真に強い 関西熱化学グループ構築」に向
け、結果にこだわった活動を推進していきます。

RC活動とコンプライアンス活動を経営の両輪として、ステークホルダーの皆様から信頼される、人に
やさしい、地球にやさしい、そして進化する企業集団を目指してまいります。

本レポートは、関西熱化学グループのRC活動についてご紹介しています。本レポートを通じて、当
社グループのRC活動をご理解いただくとともに、今後一層のご支援と忌憚のない ご意見を賜れば幸い
です。

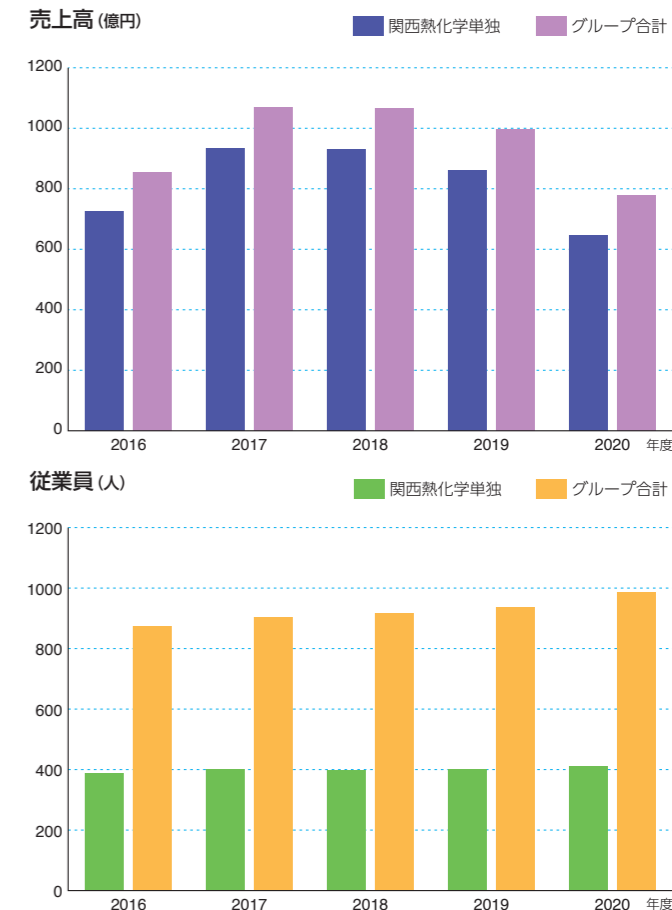
ご安全に

中期計画スローガン

Go Forward 25 明るく 元気に 前向きに

(2021年3月31日現在)

社 名 関西熱化学株式会社
Kansai Coke and Chemicals Co.,Ltd.
本 社 兵庫県尼崎市潮江1丁目2番6号
TEL 06-4300-5300(代表)
ホームページ <http://www.tkcc.co.jp/>
代 表 者 取締役社長 小林 英信 (こばやし ひでのぶ)
設 立 1956年(昭和31年)8月1日
資 本 金 60億円
事 業 内 容 製鉄用コークスの製造販売
ガス、コールドタルなどの化成品の製造販売 ほか
事 業 所 尼崎事業所
兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地
TEL 06-6416-1331
加古川工場
兵庫県加古川市金沢町7番地
TEL 079-436-1500
研究開発センター
兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地
TEL 06-6416-5951
グループ会社 株式会社MCエパテック
大阪化成株式会社
尼崎ユーティリティサービス株式会社



関西熱化学グループ経営理念

「人を財とし、自然を財とし、新たな価値を創造する」

人を財とし

関わる全ての「人」を財産として考え、行動します。

自然を財とし

「自然」を財産として考え、地球環境の保護、
限りある資源の有効活用のため、行動します。

新たな価値を創造する

「人」「自然」の融合から、
新たな価値創造へ向け、挑戦し続けます。

基本理念

「安全なくして経営なし」



Heart to Evolve
新たな進化を目指して

目次

| | | | |
|----------------------|----|------------------|----|
| ごあいさつ | 1 | 安全への取組み | 11 |
| 関西熱化学概要 | 2 | コンプライアンスへの取組み | 13 |
| 特集「関西熱化学加古川工場50年の歩み」 | 3 | 品質・化学品安全への取組み | 14 |
| リスク管理の取組み | 5 | 情報セキュリティへの取組み | 15 |
| RC基本方針・RC推進体制 | 6 | 社会とのコミュニケーション | 17 |
| 環境への取組み | 7 | RC活動トピックス | 19 |
| 2020年度RC目標と実績 | 10 | グループ会社のRC活動への取組み | 20 |

対象期間／対象範囲

この報告書は2021年度版として、2020年4月1日から2021年3月31日までの関西熱化学および関西熱化学グループのRC活動に関する活動実績に基づいて作成しました。

特集「関西熱化学加古川工場50年の歩み」

| 年代 | コークス炉稼働 | 加古川工場の活動 |
|-------|--------------------------------------|---|
| 1970年 | 1970年コークス炉Ⅰ期120門 1972年コークス炉Ⅱ期128門 | 1970年 ガス液活性汚泥処理、コークス炉窯出入時の無煙炭装入・窯出装入車・ガイド車集じん機 |
| | | 1973年 コークス炉ガス脱硫処理、貯炭場散水 |
| | | 1976年 ヒヤリハット活動 |
| | | 1979年 KY(危険予知)活動 |
| 1980年 | | 1981年 指差呼称活動 |
| | | 1982年 SK運動 スッキリ加古川運動 |
| | | 1983年 コークス炉作業機械 自動化、無人化 (83年:装入車(自)、85年:消火電車(無)、92年:押出機(自)、94年: ガイド車・装入車(無)) |
| | | 1985年 PK運動 パワーアップ加古川運動 |
| | | 1986年 コークス炉燃焼制御システム(ACC) |
| | | 1987年 加古川工場 1,2コークス炉 乾式消火設備(CDQ) |
| 1990年 | | 1989年 newPK'91運動 ニューパワーアップ加古川運動 |
| | | 1990年 貯炭場作業機械自動化、無人化 |
| | | 1992年 コークス生産累計5,000万トン |
| | | 1995年 サンサン活動 |
| | | 1998年 ISO 14001 認証取得 |
| | | 1998年 トライやるウィーク受入れ |
| | | 1998年 加古川工場 3,4コークス炉 乾式消火設備(CDQ) |
| | | 1999年 加古川市踊っこ祭り協賛 |
| | | 1999年 清掃奉仕活動 |
| 2000年 | | 1999年 TOP活動 |
| | | 2002年 RC活動導入 |
| | | 2002年 石炭調湿設備(CMC)・押出機窯口集じん機 |
| | | 2003年 OHSMS 18001 認証取得 |
| | | 2003年 Kpro活動 加古川 Positive Reliability Originality |
| | | 2005年 ISO 9001 認証取得 |
| | | 2006年 コークス史料館開設 |
| | | 2006年 Scrum活動 Stable supply Cost reduction Risk reduction Unique Management |
| 2010年 | | 2007年 モノづくり教室 |
| | | 2008年 第1,2 コークス炉 煙道集じん機 |
| | | 2010年 三學館創設 |
| | | 2010年 コークス炉上集じん機 |
| | | 2009年 ScrumⅡ活動 |
| | | 2011年 貯炭場排水浄化設備 |
| | | 2011年 Scrum15活動 |
| | | 2012年 排水脱COD設備 |
| | | 2013年 コークス生産累計1億トン |
| | | 2015年 SAY-F(セーフ)活動 |
| | | 2016年 Scrum20活動 |
| | | 2017年 加古川ふるさと祭り(花火大会)協賛 |
| | | 2018年 第3,4 コークス炉 煙道集じん機 |
| 2020年 | | 2020年 ISO 45001 認証取得 |

加古川工場は1970年の5月に稼働を開始しました。以来50年間にわたり、環境・安全への取組みはもとより、地域との共生を目指して、高品質なコークスの生産を続けてきました。これまでに生産したコークスは1億1800万トンに上り、この量は東京ドーム190杯分に相当します。

① 環境への取組み

加古川工場は、稼働当初より公害対策設備を積極的に導入し、クリーンなコークス工場を目指して操業を続けています。

1990年代には、環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得するとともに、RC活動の展開により、環境への取組みを経営の最重要課題の一つとして取り組んでいます。

1980年代半ばから、コークス炉燃焼制御システム(ACC)を開発・導入しました。また、コークス排熱を蒸気として回収するコークス乾式消火設備(CDQ)、石炭中の水分を低減する石炭調湿設備(CMC)を導入し、エネルギー効率の向上を図ってきました。2000年代には、コークス炉煙道集じん機や排水中脱COD設備を設置しました。

これらの取組みによって、地球環境負荷低減に寄与しています。

② 安全への取組み

「安全なくして生産なし」から「安全なくして経営なし」への関西熱化学グループ基本理念のもと、安全活動に取り組んできました。

1970年代半ばから、安全衛生教育、ヒヤリハット活動、KY(危険予知)活動、指差呼称活動を取り入れ、危険に対する感性を高めるための活動を現在も継続しています。保安防災面では、法令順守はもちろんのこと、防災訓練などの様々な自主保安活動を行い、保安事故ゼロを目指しています。

労働安全衛生マネジメントシステムでは、2003年にはOHSMS18001の認証を取得し、2020年にISO45001へ認証を移行しました。

リスクアセスメントや変更管理などの未然災害防止活動や、過去の災害や事故を教訓とし原因の深掘りと対策の実施、水平展開を図っています。2004年には人材育成施設の三學館を創設し若年層の教育を強化しました。2015年より、「安全最優先の徹底ができる人づくり」を目指してSAY-F(S:しつけ A:安全指示・報連相 Y:作業時の指差活動・復唱復命 F:安全風土を全員でつくる)活動を実施しています。

様々な安全活動を通じて、従業員一人ひとりの安全意識の高揚とともに、仲間への思いやりの心で風通しの良い安全で安心な職場づくりに取り組んでいます。

③ 品質への取組み

1970年のコークス炉・コークス炉ガス精製設備の稼働以後、神戸製鋼所にコークス・コークス炉ガス、三菱ケミカルに化成品、大阪ガスにはコークス炉ガス(1986年供給停止)の安定供給を行い、確かな技術と高い信頼性でお客様への信頼と満足を得てきました。また、2005年に品質マネジメントシステム ISO 9001の認証を取得しました。

加古川工場のコークス炉は操業開始から50年を経過しましたが、日々の細やかな管理と独自の保守管理技術によって高い稼働率を維持しています。自社開発の炉内観察・測定装置は、国内外のコークス炉にも採用されています。今後も世界トップクラスのコークス工場としてお客様への責任を果たせるよう技術と品質の向上に取り組んでいきます。

④ 地域貢献活動

1999年から清掃奉仕活動を現場監督者が中心になって開始しました。2005年に加古川市が実施しているアダプトプログラムに登録し、工場に参加者を募りアダプトロード清掃活動(工場から社宅まで)を実施しています。本活動で2015年には、加古川市より10年表彰を受賞しました。

1998年に兵庫県で始まったトライやるウィークでは地元中学生を受け入れています。また、2007年からは小学生を対象にモノづくり教室を開催しています。他に踊っこ祭りや加古川ふるさとまつり(花火大会)等にも協賛し、地域と共に発展していくことを目標に活動しています。

リスク管理の取組み

関西熱化学グループでは、重大な危機や非常事態の発生を未然に防ぐこと、および万が一重大な危機や非常事態が発生した場合でも、企業活動への影響を最小限にとどめることを経営の重要課題と位置づけています。企業活動を行ううえで様々な事業リスクが潜在していますが、各部署でリスクを影響度と頻度の切口から定量的に抽出し、リスクを仕組みに基づいた管理を実施することで、危機や非常事態の発生を未然防止に努めています。

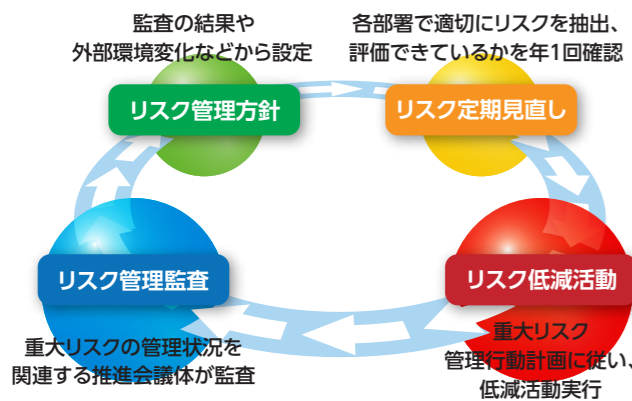
リスク管理活動

関西熱化学グループでは、年度のリスク管理方針に従って、各部署で事業リスクの抽出、評価、対応策の策定を行い、リスク低減活動を実行しています。

2020年度リスク管理方針は以下のとおりです。

- ①リスク顕在化に至る想定シナリオの明確化と対策の策定
- ②顕在化したリスクの原因究明の徹底と水平展開
- ③リスク低減対策の再検証
- ④リスク低減に向けた環境造り(RC、コンプライアンス推進活動への落とし込み)

特に重大なリスクについては、リスク管理委員会にて対策の実行状況を管理しています。各部署で抽出されたリスクの評価や対策の妥当性については、リスクの種類ごとに関連する推進会議体による監査等により確認され、その結果に基づき、リスク管理委員会にて次年度のリスク管理方針が決定されます。



リスク管理活動サイクル



関西熱化学グループリスク管理活動の考え方

事業継続計画

関西熱化学グループでは、地震・津波などの大規模災害の発生に対して適切な対応を行うことで事業活動への

影響を最小限にとどめるための継続計画(BCP: Business Continuity Plan)を策定し、運用・見直しを実施しています。

リスク管理教育の推進

抽出した重大リスクの評価や低減対策を職場ごとに共有することを目的に、リスク管理活動について全従業員を対象に教育を実施しました。

最初に、リスク管理全般、リスク管理の進め方や、リスク管理活動スケジュール、今年度のリスク管理方針、リスク管理体制について学び、次にリスク管理活動と日々の業務とのつながりや、リスクのランク付けの定義等を学びました。最後に、各部署で保有しているリスクの内容と低減対策について共有しました。

重大なリスクの顕在化を防ぐとともに、万が一リスクが顕在化した場合に、人的・経済的・社会的損害を最小限に

とどめるための活動であり、従業員一人ひとりがそれぞれの職場で取り組むべき課題であることを理解しました。



リスク管理教育(加古川)

RC基本方針・RC推進体制

RC基本方針

- ①「環境・安全」の確保を、企業存立の必須要件として企業活動を行う。
- ②無事故・無災害の操業を続けることにより、従業員と地域社会の安全を確保する。
- ③製品の開発から廃棄に至るまで、製品の全ライフサイクルにおいて、環境の保護および製品の安全に配慮する。
- ④お客様が満足し、かつ、安心して使用できる製品・サービスを提供する。
- ⑤法令等の遵守はもとより、この基本方針の重要性を認識し、自らの責任を自覚した行動に努め、社会からの信頼向上を図る。

RC推進体制

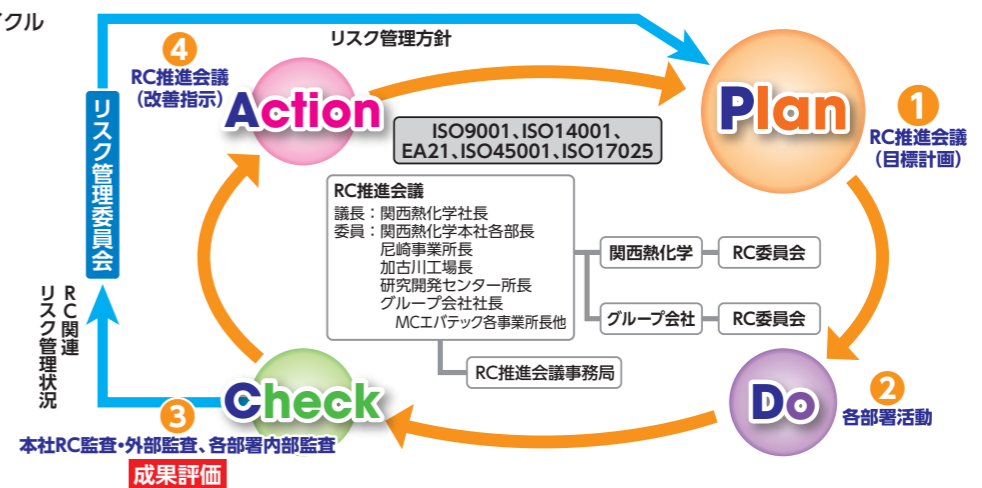
関西熱化学およびグループ会社の代表から組織されるRC推進会議が、環境保全、保安防災、労働安全衛生、化学品安全・製品品質に関する基本事項を定め、グループ全体のRC活動を統括します。

RC推進会議では、当該年度のRC活動の成果およびリスク管理委員会にて決定されるグループのリスク管理方針に基づいて、次年度のグループRC活動方針、RC目標およびRC活動計画が承認され(Plan)、このRC推進会議のも

とで、各部署に組織されているRC委員会が具体的な活動を推進し(Do)、計画の進捗管理が行われます。

RC活動は主に、本社RC監査、RCパトロール、内部監査および外部監査によってチェックされ(Check)、その内容に基づいて活動計画を都度見直すことや、改善事案を所属員に周知(Action)されることでPDCAサイクルが確保されています。

RC推進体制とP・D・C・Aサイクル

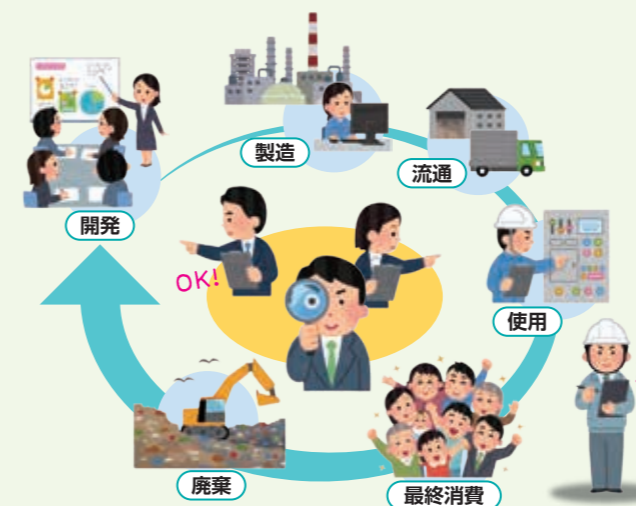


RC (Responsible Care) とは

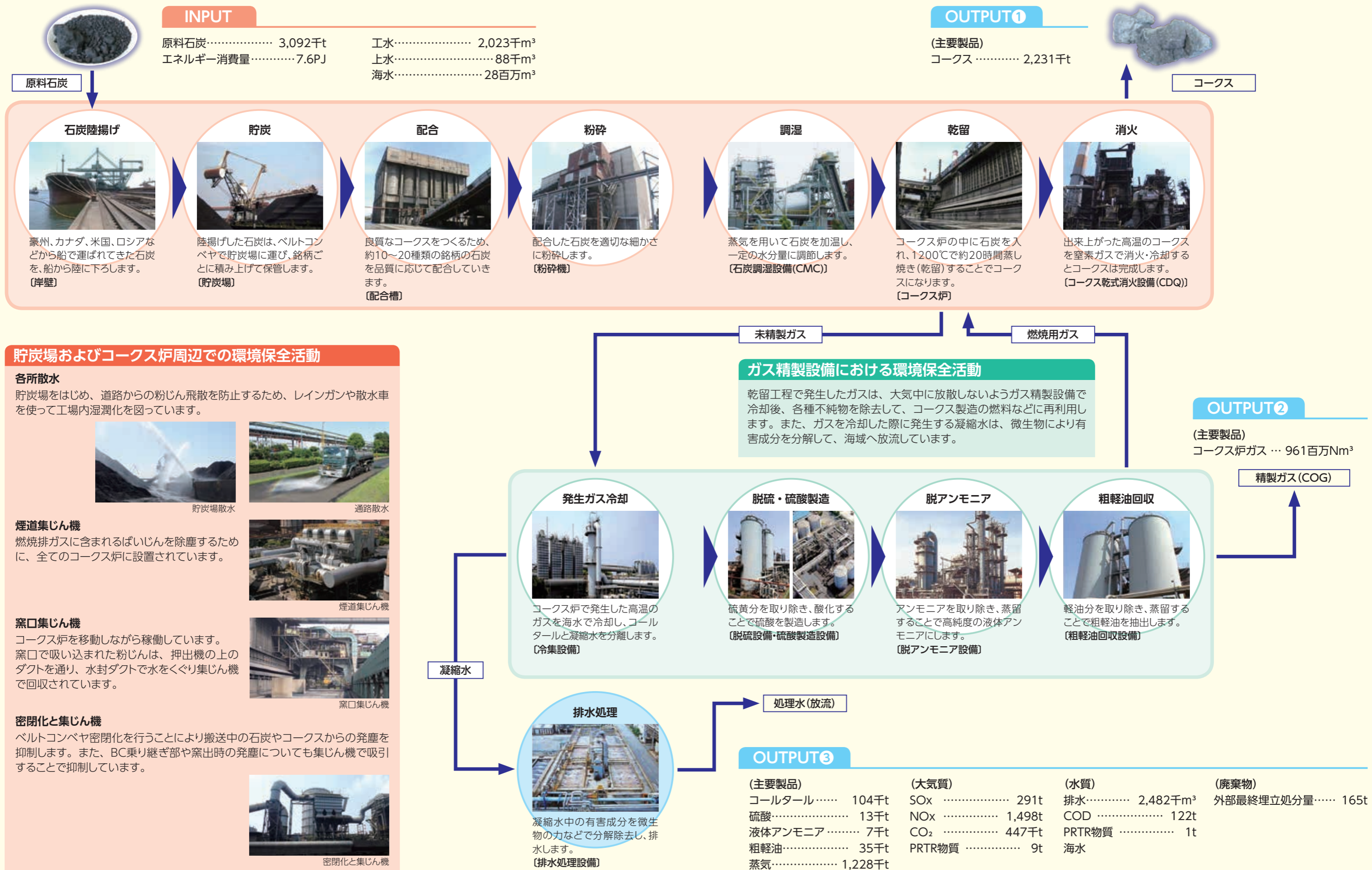
私たちの身の回りには、化学製品がたくさんあります。化学製品は、自動車、家電、衣料品、スポーツ用品、化粧品などの最終製品の材料として、また、製造工程における反応剤、触媒等として、私たちの暮らしを豊かで

快適なものにする役割を果たしています。しかし、時としてその扱いを誤ると、人体や環境を脅かす有害な物質として作用することがあります。

こうした背景を踏まえて、それぞれの企業が製品の開発から製造、物流、使用、最終消費、廃棄に至るすべての過程において、法律を守ることはもとより、それ以上の自発的行動でリスクを回避し、社会に伝えていくことが必要です。「レスポンシブル・ケア(RC)」とは、「環境保全」、「保安防災」、「労働安全衛生」、「化学品・製品安全」について、企業が自主的に取り組み、社会からの信頼を深めていくことを目指す活動を指します。



関西熱化学グループでは、RC活動を経営の最も重要な柱の一つと位置づけ、2001年10月に社長による実施宣言(レスポンシブル・ケア実施宣言)を行い、環境・安全・品質に関する基本方針(RC基本方針)を制定し、活動をスタートさせました。そして、グループで組織する活動体制(RC推進体制)を基に、グループの特色を生かした活動を毎年展開しています。

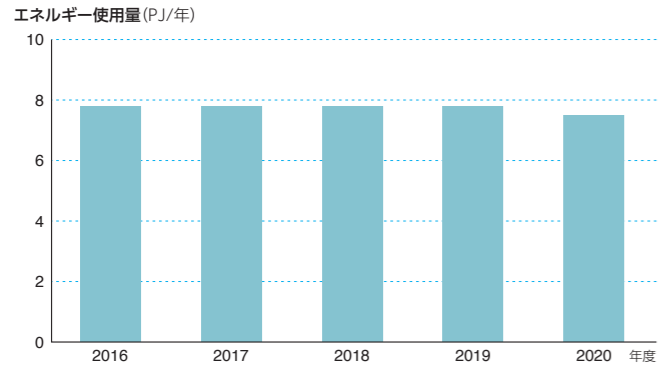


環境への取組み

地球温暖化抑制への取組み

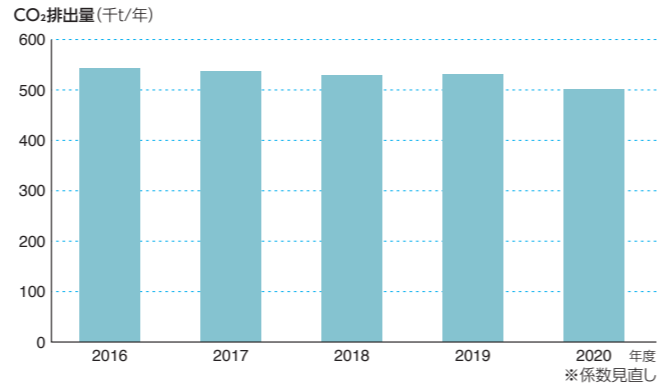
加古川工場では、コークス製造工程の様々な設備で、燃料や電気をエネルギーとして使用しています。コークス

エネルギー使用量推移 (加古川工場 試算値)



炉は約50年と長期間稼働していますが、様々な取組みによりエネルギーの使用量増加を防いでいます。

CO₂排出量推移 (加古川工場 試算値)

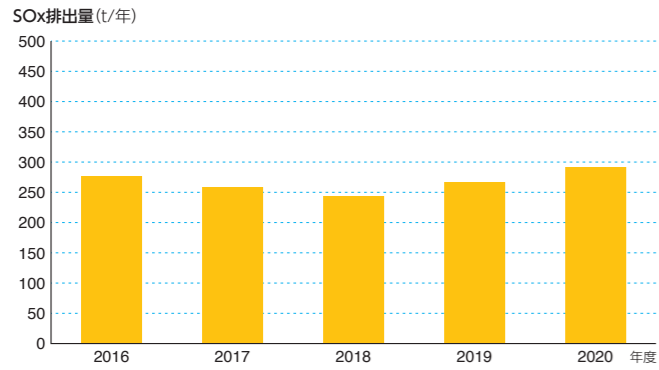


大気環境保全への取組み

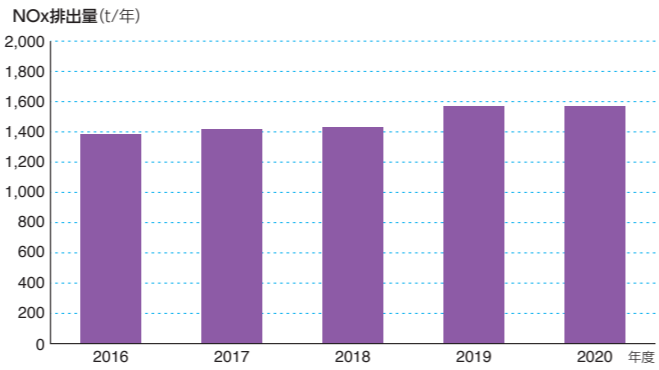
加古川工場で、コークス製造に使用する燃料ガスには、硫黄分やアンモニア分が含まれています。事前にガス中の硫黄分・アンモニア分等を除去するとともに燃焼管理を

強化することで、燃焼後の排ガスに含まれるSOxやNOxの排出抑制を図っています。

SOx排出量推移 (全社)



NOx排出量推移 (全社)

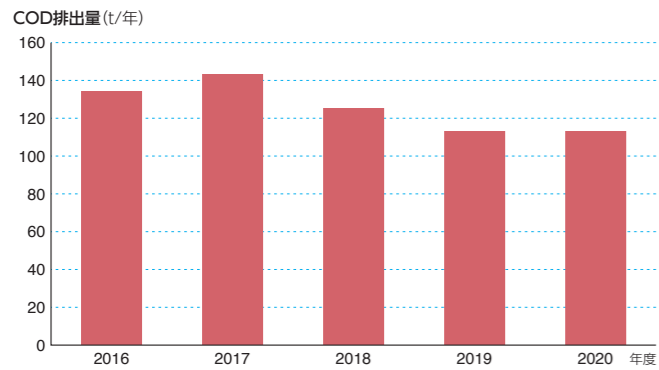


水環境保全への取組み

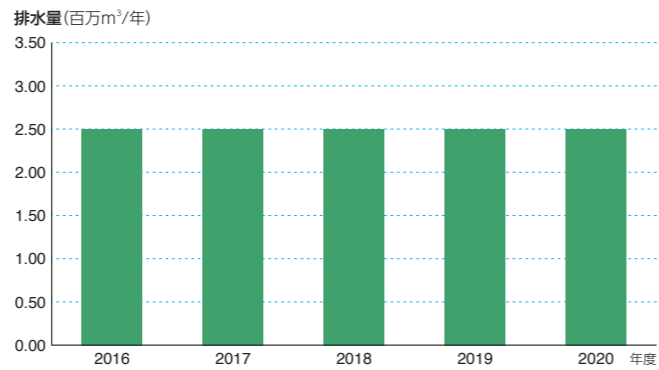
加古川工場内で発生した凝縮水は、活性汚泥処理などの排水設備で適切に処理した後、海域に放流しています。また、工場内の貯炭場等で散水に使用する水などは、工

場内で一度使用した水を循環使用することで工業用水使用量の抑制を図っています。

COD排出量推移 (全社)



排水量推移 (全社)

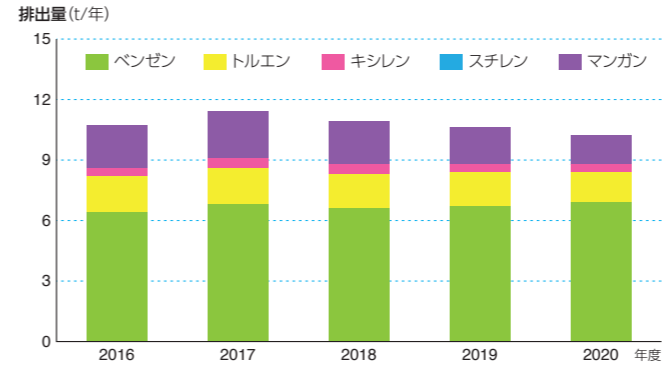


| | |
|----------------|--|
| SOx(硫黄酸化物): | 石油や石炭など硫黄分が含まれる燃料を燃焼させることにより発生する硫黄と酸素の化合物 |
| NOx(窒素酸化物): | 石炭や石油などの燃料中の窒素や空気中の窒素が高温燃焼時に酸化されて発生する窒素と酸素の化合物 |
| COD(化学的酸素要求量): | 水中に含まれる物質を酸化するために必要とする酸素量 |

化学物質適正管理への取組み

PRTR法 (特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律) に従い、加古川工場でも対象となる物質について国に対して移動量と排出量の報告を行っています。また、排出に関わる設備の管理を強化しています。

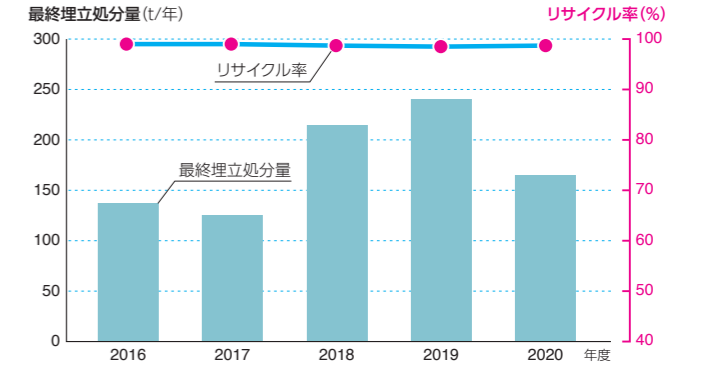
PRTR法対象物質排出量推移 (加古川工場)



廃棄物削減への取組み

加古川工場から排出される産業廃棄物は、民間の産業廃棄物処分業者に処分を委託しており、定期的に委託した廃棄物が適正に処分されていることを確認しています。2009年度からゼロエミッション (廃棄物の99%以上リサイクル) を継続しています。

産業廃棄物最終埋立処分量及びリサイクル率推移 (加古川工場)



2020年度RC目標と実績

「責任ある自主的な行動により社会からの信頼を受ける会社」を目指し、「環境トラブルゼロ、保安事故ゼロ、労働災害ゼロ、品質トラブルゼロ」等を目標に活動しています。

関西熱化学グループ 2020年度RC目標と実績

| 項目 | | 目標 / 重点実施項目 | 2020年度実績 |
|----------|-----------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 環境保全 | 環境管理 | 環境重大トラブルゼロ | 環境重大トラブル1件 |
| | CO ₂ 排出量削減 | CO ₂ 排出量2019年度実績維持 | CO ₂ 排出量2019年度実績維持 |
| | 有害物質排出抑制 | ベンゼン環境基準達成 | 環境基準達成 |
| | 廃棄物削減・リサイクル | リサイクル率99%以上 | リサイクル率99.3% |
| 安全衛生 | 防災 | 保安事故ゼロ | 保安事故0件 |
| | | 防災訓練の強化 | 総合防災訓練等緊急時対応訓練実施 |
| | 労働安全衛生 | 休業・不休業労災ゼロ | 休業労災3件、不休業労災0件 |
| 品質・化学品安全 | 品質 | 品質重大トラブル、品質大クレームゼロ | 品質重大トラブル0件、品質大クレーム1件 |
| | コンプライアンス | コンプライアンスの意識向上 | コンプライアンスに係る教育・研修の実施 |
| 共通 | 社会とのコミュニケーション | 社会貢献 | 地域清掃、ボランティア活動、スポーツ振興、マスク寄贈など |

関西熱化学グループ マネジメントシステム認証取得状況

| 規格 | 認証取得場所 |
|-----------------------|---|
| ISO9001 品質マネジメントシステム | 関西熱化学(株) 加古川工場 |
| | (株)MCエバテック 本社 (ソフトウェア事業)、尼崎事業所、加古川事業所、つくば分析センター、四日市分析センター |
| | 大阪化成(株) |
| | 尼崎ユーティリティサービス(株) |
| ISO14001 環境マネジメントシステム | 関西熱化学(株) 加古川工場 |
| | (株)MCエバテック 尼崎事業所、加古川事業所、つくば分析センター、四日市分析センター、大阪茨木分析センター |
| | 大阪化成(株) |
| エコアクション21 | 関西熱化学(株) 本社、研究開発センター |
| | (株)MCエバテック 本社 |
| 安全マネジメントシステム | ISO45001 |
| | ISO17025* |
| | (株)MCエバテック 加古川分析センター、つくば分析センター |

* 試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項

安全への取り組み

関西熱化学グループでは、リスクアセスメントやパトロール、ヒヤリハット活動などにより、職場の潜在的な危険や有害な要因を見つけ出し、設備改善等でそれらを低減・除去する活動を展開して、事故や災害などの未然防止を図っています。

労働安全

全従業員が労働安全衛生活動に参加し、労働安全衛生レベルの向上に取り組み、労働災害ゼロの達成を目指して活動しています。

労働災害防止への取り組み

2019年度から転倒災害防止施策の一環として、全社一斉で「安全安心体力テスト」と「KAITEKI体操」への取り組みを始めました。

「安全安心体力テスト」は、転倒しにくい身体づくりへの意識向上を目的として、毎年1回、転倒リスクに対する自らの身体機能の客観的な評価に繋がっています。2020年度は、12月に従業員851名が、3種類のテストで身体機能を評価しました。

転倒しにくい身体づくりを目的とした9つの動作を含めた「KAITEKI体操」を毎日5分程度行っています。毎日継続して行うことで運動不足解消とリフレッシュ効果が期待できます。



安全安心体力テスト(加古川)

保安防災

各職場における教育やパトロールの実施により事故防止に取り組むとともに、防災訓練などを実施して災害への備えを図っています。

保安事故防止への取り組み

加古川工場では、10月の高圧ガス保安活動促進週間に合わせて、保安意識の高揚および保安活動の促進を図るために、外部講師を招いて保安防災教育を実施しています。保安教育では、設備運転管理のポイント、他社事故事例、ヒューマンエラーの防止策、危険予知教育などについて説明がありました。

教育以外に、パトロールの実施や空気呼吸器装着訓練などの設備異常時の処置訓練を行っています。

尼崎事業所では、保安事故の発生に繋がる不具合がないか、消防法や高圧ガス保安法の適用設備を対象としたパトロールを年3回実施しています。



空気呼吸器装着訓練(加古川)

保安防災訓練の実施

加古川工場では、工場総合防災訓練をはじめとした災害対策本部訓練や防災隊員訓練の実施に加えて、工場外部と連携する兵庫県石油コンビナート等総合防災訓練にも参加しました。

また、保安事故が発生した場合でも、スムーズな消火活動とそれに伴う二次災害の防止を確実にするために、日頃から消防操法訓練や放水訓練を実施しています。

尼崎事業所では、秋の火災予防運動に合わせて、公設消防への通報訓練や若年者への消火訓練を実施しました。



工場総合防災訓練(加古川)

健康管理

関西熱化学グループでは、「社員は人財(たから)」であり、社員の健康管理を経営としての最重要課題の一つと考えています。社員の活力向上や生産向上などの効果に繋げる活動を実施しています。

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の国内での感染拡大に対して、手洗い・うがい・咳エチケットの実施および3密防止といった基本的な感染予防対策の徹底はもとより、テレワーク・時差出勤の実施やリモート会議の活用にも積極的に取り組んでいます。

オフィスなどの共有スペースでは、パーティションの設置や机・イスのアルコール消毒などの感染予防対策に取り組んでいます。

感染予防対策の実施と新しい生活様式の定着を図り、従業員の健康と安全の確保に努めています。



会議室パーティション(本社)

衛生講演会の開催

関西熱化学グループでは、毎年、全国労働衛生週間に合わせて、衛生講演会を開催しています。

2020年度は理学療法士を講師に招き、「知っていますか?健康診断結果の見方とその対策~早めに取り組みれば後が楽~」をテーマに、健康診断の目的、健康診断結果の活用方法、体重変化から見る糖尿病リスクなどについて説明がありました。グラフ化による健康診断結果の把握、食習慣や食後の運動などの生活習慣の改善事例などの紹介もありました。

最後は、食後の運動の一例として紹介されたトレーニングを講演会場で実践して体感しました。



衛生講演会(本社)

フィジカルヘルスケア

年2回の健康診断結果をもとに、産業医・保健師による面談フォローを実施し、自律的な生活習慣病予防をサポートしています。

2020年度も健康診断を受診した全員が、日頃の健康上の悩み相談やアドバイスを受けられる保健師ミニ面談を実施しました。

また、健康経営の一環として、禁煙時間の拡大による禁煙環境の見直しや喫煙率低減を図るための継続的な禁煙支援に取り組んでいます。

メンタルヘルスケア

自らのストレスコントロールの手法を学ぶセルフケア研修、部下のメンタルヘルスケアや職場環境改善の手法を学ぶラインケア研修を毎年実施しています。2020年度は、セルフケア研修では、呼吸法等のリラクゼーションを学習、実践することで、心身をほぐし、日常のストレスマネジメントに役立つポイントについて学習しました。

また、管理者を対象としたラインケア研修では、日頃行っている職場での対策や工夫をメンタルヘルス一次予防対策の視点から整理し、より快適に働くための職場環境や、相談しやすい職場づくりについての研修を行いました。研修で学んだことも参考にして、職場での意見交換を行いながら、快適な職場づくりに取り組んでいます。

健康経営優良法人認証取得

関西熱化学は、健康経営優良法人の認証を2018年度に初めて認証されてから4年連続して取得しています。



2021

健康経営優良法人
Health and productivity

コンプライアンスへの取り組み

コンプライアンスは、単なる法令の遵守に限らず、モラルや企業倫理などの社会的規範を遵守するというより広い意味で認識されています。関西熱化学グループでは、コンプライアンスを経営の重要な課題として位置付け、コンプライアンスの推進に努めています。

コンプライアンス推進プログラム

関西熱化学グループでは、「関西熱化学グループ企業倫理憲章」において倫理規範を定め、常に高い倫理観と社会的良識をもって行動し、社会から信頼される企業グループを目指しています。

また、「関西熱化学グループ・コンプライアンス行動規範」「関西熱化学コンプライアンス・ホットライン運用規則」など、コンプライアンス推進プログラムを整備し、その適切な運用・管理に努めています。

| 企業倫理憲章 |
|-------------|
| 1. 自覚・責任 |
| 2. 公正・公平・誠実 |
| 3. 遵法精神 |
| 4. 節度 |
| 5. 透明性・開放性 |

コンプライアンス推進活動

関西熱化学グループでは、日常業務におけるコンプライアンスの定着とコンプライアンス違反ゼロに向けて活動を推進しています。

まず、日常業務におけるコンプライアンスの定着については、部署ごとに原理原則を理解できる教育・研修を継続して行ったほか、コンプライアンス違反事例の周知や、コンプライアンス関連項目について従業員意識調査の結果の分析・フィードバックを実施しました。

次に、コンプライアンス違反ゼロに向けた取り組みとして、コンプライアンス推進チームによる独禁法監査や交際費の調査、営業従事者へのコンプライアンスリスク確認面談、情報セキュリティ推進事務局と合同で情報セキュリティ監査を実施しました。また、各部署で法令届出漏れの有無や法改正の有無を点検しました。

人権への取り組み

関西熱化学グループでは、「人権意識を高め、人々の多様性を尊重し、社会から認められる、心豊かな企業集団を目指す」という基本方針のもと、従業員一人ひとりの人権意識を高める活動に取り組んでいます。

職場・地域・家庭など、日常生活の様々な場面における人権活動が定着していくよう、ビデオ教育やグループ討議を取り入れ、一般職から役員まで参加する階層別研修を

実施するとともに、社内電子掲示板などへの人権啓発に関する掲示を行っています。

加古川市企業人権・同和教育協議会（企同協）が、人権活動の推進と人権意識の高揚を目指して募集した「キャッチコピー」・「ロゴマーク」に、社内優秀作品の中から、計15作品を企同協別府ブロックに推薦提出しました。

2020年度優秀作品 ロゴマーク(5作品)



品質・化学品安全への取り組み

品質への取り組み

関西熱化学グループでは、製品品質を管理するために、国際標準化機構 (ISO) が発行する国際規格である ISO9001 の認証を取得しています。定期的に内部監査を実施し、品質マネジメントシステムに適合した管理がなされているか確認し、必要に応じて改善を実施しています。

品質マネジメントシステムをより深く理解し、日々の品質管理やより有効な内部監査に繋げるために、外部講師による品質マネジメント研修を実施しています。研修は、規格の要求事項の理解を深める【初級】、内部監査員としての必要な力量を得るための【中級】、内部監査員リーダーの養成を目指す【上級】と、3つのコースに分かれ、修得したいレベルに応じて受講できるカリキュラムを用意しています。

2020年度は、現場で実務を担う管理職やスタッフ、主任等基幹職を対象に、(1)改善の手順研修、(2)小集団活動相談会、(3)なぜなぜ解析研修を開催しました。

(1)改善の手順研修

様々な問題を解決するために改善活動を実施しています。問題解決能力を更に高めて改善活動に生かしてもらうために改善の手順研修を開催しました。

最初に、改善の必要性やものづくりの基本、改善活動の対象といった改善活動全般について学び、次に改善活動の進め方について、①問題点の発見、②テーマ選定、③現状把握、④目標の設定、⑤要因解析について学びました。現状把握で、改善の方向性を決め、仮説を想定し、目指



品質マネジメント研修(尼崎)

すべき状態を目標として設定する。そして、要因解析で、QC手法を利用して仮説を検証することや根本の要因を探すことの重要性を理解しました。

(2)小集団活動相談会

改善の手順の理解を深め、小集団活動のレベルアップを図るために小集団活動相談会を開催しました。

取り組み中の小集団活動で、活動テーマや現在の状況、悩んでいること等を聞いたうえで、改善の手順に沿ってアドバイスを実施しました。現状把握についてアドバイスをを行い、要因解析に必要なQC手法を紹介しました。「悩んでいましたが、今後の活動の参考となりありがとうございました」等の意見がありました。

(3)なぜなぜ解析研修

問題について原因を深掘りし、真因を追究する手法の一つであるなぜなぜ解析について学び、職場で活用してもらうために研修を開催しました。

まず、問題解決型QCストーリーを学んだ後、なぜなぜ分析の概要や進め方について学びました。その後、演習を行い、演習の内容について発表しました。個人演習では、実際に参加者が抱えている問題についてなぜなぜ解析を実施し、講師に解説して頂きました。

「演習が多かったため、やり方のイメージがつきやすかった」「要因解析の正しい方法が学べてよかった」等の意見がありました。



改善の手順研修(尼崎)

化学品安全への取り組み

化学物質を安全に取り扱うために、種々の法律（化学物質の審査および製造等の規制に関する法律、労働安全衛生法など）に基づき、製品や取り扱う化学物質についての SDS (Safety Data Sheet) の教育を作業員に対して実施しています。また、事業場におけるリスクアセスメントが義務化された対応として、対象となる一定の有害性のある化学物質とそれを取扱う作業を洗い出し、リスクの見積り、リスクレベルに応じた低減措置を計画的に進めています。

これらのリスク評価によって得られた危険性の情報については、SDSの教育とともにラベル表示によって、それに従事する作業員へわかり易く伝えるための仕組みを作り運用しています。

一方、毒劇物の盗難・紛失や悪用が社会問題となっています。盗難・紛失により悪用される恐れのある化学物質については、ガイドラインを設けてこれに従い管理を実施することにより、盗難・紛失の防止に努めています。

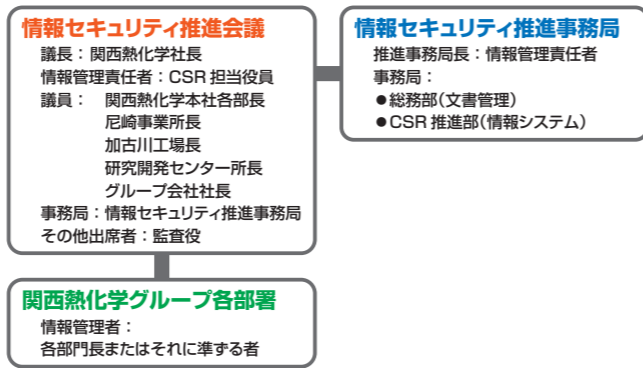
情報セキュリティへの取り組み

企業が所有する情報には、顧客データ、従業員情報などの個人情報や企業独自または取引先から開示を受けた技術情報・営業情報、取引先と締結した契約書等、厳重な管理を行うべきものが多数あります。これらの重要な情報が漏洩した場合、金銭的損失だけでなく、企業の信用、存亡にかかわる重大なリスクに発展する恐れがあり、そのリスクに対する対応が求められています。関西熱化学グループでは、情報セキュリティ基本方針のもと、情報セキュリティ管理規則を制定、規則に基づいた運用を行い、情報漏洩防止に努めています。

関西熱化学グループ情報セキュリティ推進体制

関西熱化学グループは、関西熱化学社長を議長、CSR担当役員を情報管理責任者、本社各部長・場所長ならびにグループ会社社長を議員とする「情報セキュリティ推進会議」を設置、情報セキュリティに関するグループ全体の活動を統括し、具体的な推進計画・実行施策に関する討議・調整、指示事項の徹底、施策進捗管理を行い、より確実な情報セキュリティの強化を図っています。

また、本会議で決定された情報セキュリティ対策は、各部署の推進担当者を通じて全従業員へ周知するようにしています。



関西熱化学グループ 情報セキュリティ推進体制

情報システムセキュリティにおける対策

関西熱化学グループで日常業務に利用している情報システム機器は、多くのリスクに対して、様々な技術的対策が導入されています。

① 入口対策

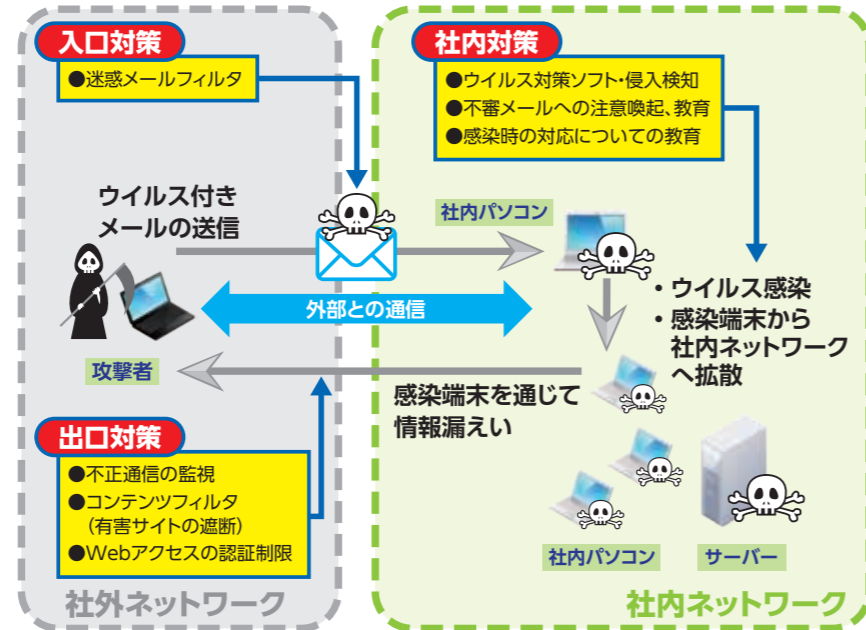
入口対策として、標的型攻撃メールが社内システムに侵入しないように「迷惑メールフィルタ」を導入しています。この機能は、標的型攻撃メールの可能性が高いメールを隔離する仕組みです。「迷惑メールフィルタ」を導入することにより、標的型攻撃メールが社内に侵入する件数を大幅に削減しています。

② 社内対策

社内対策の代表例は、ウイルス対策ソフトウェアによる「ウイルス侵入検知」です。日常業務で利用しているパソコンには、ウイルス対策ソフトが搭載されており、パソコン内に侵入したウイルスを検知し、除去します。そのため、「ウイルスパターンファイル」は、常に最新の状態を保つようにしています。

③ 出口対策

情報の搾取は、ウイルスに感染したパソコンから外部とのWeb通信を装った形で行われることが多く、この外部との通信を検知・防止することで、情報の漏洩を防止することが可能です。Web通信状況を監視し、不正な情報を検知した場合は、外部との通信を遮断するようにしています。



情報システムセキュリティ対策

また外部との通信を行う際には、認証機能を導入し、意図しないWeb通信を防止しています。

情報セキュリティ教育

情報システムセキュリティにおいては技術的な対策だけでは、十分な対策とは言えません。情報セキュリティの確保のためには、これらの情報システムを利用する従業員の情報セキュリティに対する意識向上が重要です。関西熱化学グループでは、全従業員を対象に、情報セキュリティについての理解度の確認と更なる向上を目的として、情報システムセキュリティに関するネット研修を実施するとともに、日常業務で注意すべき事例を解説した「情報セキュリティガイドブック」を全員に配布しています。また、業務経験の浅い従業員を対象とした情報セキュリティ教育(階層別情報セキュリティ教育)を行い、その教育では、他社の情報セキュリティトラブル事例や標的型攻撃メールの特徴・対応など幅広い内容で教育を実施しています。



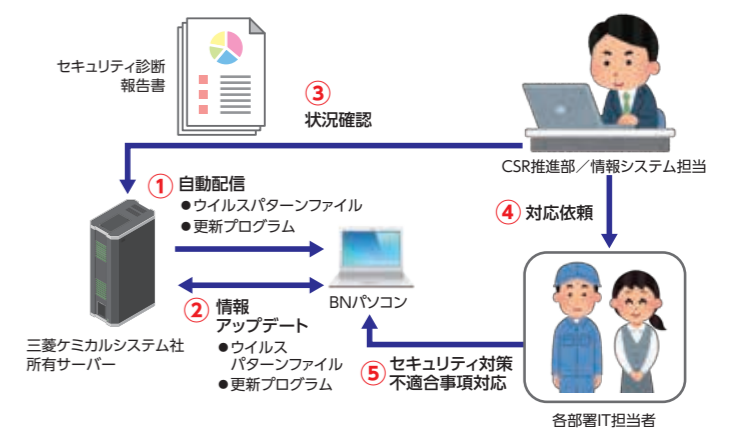
階層別情報セキュリティ研修

情報セキュリティガイドブック

セキュリティ診断情報の活用

パソコンに導入されているウイルス対策ソフトのウイルスパターンファイルを最新に保つこと、パソコンに必要な更新プログラムが適用されていることは、情報システムセキュリティ対策において、非常に重要です。

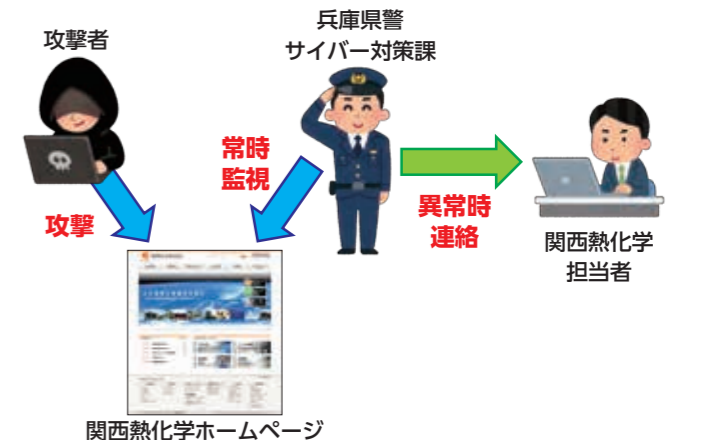
関西熱化学グループでは、利用者全員のパソコンのウイルスパターンファイル状況や更新プログラムの適用状況を情報システム担当が毎週確認し、最新になっていないパソコンについては、各部署ICT委員を通じ、パソコン利用者に更新作業の実施を依頼し、最新のセキュリティ対策状態を保つようにしています。



セキュリティプログラム更新依頼フロー

ホームページのセキュリティ対策

近年、外部からホームページを意図的に改ざんし、画像の中にウイルスを仕込むなど手口が巧妙化しています。関西熱化学のホームページは兵庫県警サイバー対策課に常時監視を行ってもらい、改ざんやウイルスが仕込まれたなどの痕跡が発見されても、速やかに担当者が連絡を受け、ホームページ制作会社と対応を協議する仕組みを構築しています。加えて、三菱ケミカル社指導の下、関西熱化学グループが所有するホームページの脆弱性解消に向け、制作会社と協議し、ホームページのセキュリティ対策を維持しています。



関西熱化学ホームページ

兵庫県警によるホームページ監視

| | |
|----------------------|---|
| ウイルスパターンファイル: | 「ウイルス定義ファイル」のことで、過去に検出されたコンピュータウイルスの情報が載っているファイルです。パターンファイル内のウイルス情報と一致するとウイルスと判定されます。 |
| 更新プログラム: | コンピュータのOS(オペレーティングシステム)やソフトウェアに不具合が見つかった時に、不具合を修正するために配布されるプログラムのことです。 |
| 脆弱性: | コンピュータのOS(オペレーティングシステム)やソフトウェアにおいて、プログラムの不具合や設計上のミスが原因となって発生した情報セキュリティ上の欠陥のことを言います。 |

社会とのコミュニケーション

関西熱化学グループでは、地域との共存を目的に積極的なコミュニケーションを実施しています。私たちは、今後もさまざまな場面で地域イベントへの参加や地域ボランティア活動への協賛などを通じ、地域社会へ貢献する活動を行っていきます。

コークス史料館見学会

コークス史料館は、2006年10月に創業50周年を記念し、開設されました。2021年3月末までの来館者は6,258名を数え、多くの方々にコークスや関西熱化学の技術を伝える貴重な場となっています。

毎年秋の「神鋼かこがわフェスティバル」開催時に、一般公開を行ってききましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。



コークス史料館



コークス史料館

館内にはコークスはもちろんのこと、コークス炉に装入する原料炭、銑鉄の原料である鉄鉱石や焼結鉱などを展示しており、鉄づくりに興味を持っていただけるよう工夫しています。

ボランティア活動

尼崎市立次屋保育所でボランティア活動を実施しました。当日は精鋭6名が参加、暑い日ではありましたが、汗だくになり保育所からの依頼作業に取り組みました。玄関周りや側溝の清掃、草木伐採等、黙々と作業をこなし、所長・職員・子供達から感謝の言葉を頂戴しました。



ボランティア活動・保育所清掃(参加者)

毎年夏休み時期には、小学生を対象に「モノづくり教室」を実施してききましたが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。



ボランティア活動・保育所清掃

ボランティア清掃

関西熱化学グループの各場所で周辺地域や通勤道路などの清掃活動を行っています。

様々な部署の方が一体となって、地域の環境美化に貢献



ボランティア清掃(加古川地区)

しています。また、この清掃が部署間の交流の場にもなっています。



ボランティア清掃(加古川地区)

市民スポーツ振興への賛助

毎年加古川市で開催されるレガッタの運営を円滑に行うため、体育班が中心になり、レガッタの審判団などとして協力しています。「市民レガッタ」は新型コロナウイルス

感染症の影響により中止となりましたが、「Head Of The Kakogawa」では大会審判として協力しました。



出典：加古川漕艇センターHP (<https://www.kakogawawellness.jp/rowing/>)



社会貢献

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、医療機関への支援として、加古川工場および研究開発センターから寄せられたDS2マスク440枚、防護服270枚を加古川市危機管理課に寄贈しました。

その活動に対し、岡田加古川市長から感謝状が贈呈されました。



加古川市からの感謝状

RC活動トピックス

関西熱化学グループでは、グループ内の各部署でのRC活動をより活発で有効な活動とするために様々な取り組みを行っています。

第15回関西熱化学グループRC大会

各職場のRC活動の活性化とモチベーションの向上を目的として「関西熱化学グループRC大会」を毎年開催しています。第15回となる2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、人数制限の上、発表会を開催しました。

今回から、新たに評価指標となった「改善の手順」に沿って、各職場で抱えている安全・環境・品質などの問題に対する改善活動事例9件の発表があり、審査の結果、関西熱化学原料課が最優秀賞を受賞しました。

その他の職場も知恵と工夫を織り込みながら大きな成果に繋がる改善活動事例の発表となり、RC活動の情報を共有する有意義な大会となりました。



第15回関西熱化学グループRC大会

【発表概要紹介：最優秀賞 加古川工場 製造部 原料課】

環境問題や通行時転倒リスクの要因となっている脱水機からの汚泥流出を防止するために、汚泥の状態・脱水機構造・洗浄ノズル・水圧などの調査結果から、薬剤注入方法および脱水機の排水穴・洗浄ノズルを見直し、汚泥流出を95%低減する成果をあげた。

RC大会発表事例

| 表彰 | 活動名称 | 発表部署 |
|--------|--|--|
| 最優秀賞 | 1期脱水機汚泥流出防止 ～水処理設備汚泥流出トラブルゼロへの挑戦～ | 加古川工場 製造部 原料課 |
| 優秀賞 | MPC-1ニードル工場 蒸気洗浄時間の短縮 | 大阪化成(株) 製造部 |
| 優良賞 | GV作業者の危険予知能力の向上 | 加古川工場 安全衛生協力会 品川ファーンズ(株) |
| 以下、発表順 | 食塩仕込み作業のこぼれ解消 | 尼崎ユーティリティサービス(株) 製造部 |
| | 充填設備周辺堆積粉低減 | (株)MCエバテック 尼崎事業所 製造部 アクア・澱粉課 |
| | RAIによる現場作業の安全性向上および情報の共有 再測定を無くすために | (株)MCエバテック 分析事業部 四日市分析センター フィールド技術グループ (株)MCエバテック 加古川事業所 分析センター 環境分析課 |
| | 製品液安 自主管理値超過ゼロへの挑戦 | 加古川工場 製造部 ガス課 |
| | 機器・作業トラブル対応力の強化 | 研究開発センター 管理グループ |

RCパトロール

関西熱化学グループでは、全国安全週間に合わせて、RC推進会議議長（関西熱化学社長）によるRC活動の状況確認と激励を目的としたRCパトロールを実施しています。2020年度は、7月3日から9日にかけて、加古川、尼崎・中島、四日市の3拠点のRCパトロールを実施しました。

議長から、「明るく 元気に 前向きに活動することをお願いします」という激励とともに、「一人ひとりが、自分の仕事や職場をより良くするために何が必要かを意識すること」とのメッセージが寄せられました。



四日市地区(MCET四日市分析センター)



尼崎・中島地区(大阪化成)

RC監査

関西熱化学グループにおける各部門のRC活動実施状況を点検し、活動の改善点を見出すことを目的として、CSR推進部によるRC監査を実施しています。

2020年度は、(1)自部署の弱みを改善するCAPDの実践、(2)過去トラブルの再発防止策徹底、(3)事故・トラブル未然防止への取り組み状況について、10部署の監査を実施しました。

RC監査で見出された好事例や改善案件は、CSR推進部から各部署に対して情報発信を行い、RCパフォーマンス向上に繋がっています。



尼崎ユーティリティサービス



関西熱化学 加古川工場

グループ会社のRC活動への取り組み

グループ会社の環境関連技術とRC活動トピックス

株式会社MCエバテック

- 本 社 兵庫県尼崎市潮江1丁目2番6号 TEL 06-4300-5442(代表)
- 代 表 者 取締役社長 草野 晋平(くさの しんぺい)
- 設 立 1979年(昭和54年)1月
- 資 本 金 2億8000万円
- 事業内容 炭素材事業、精密洗浄事業、分析事業、総合サービス事業(不動産業、飲食業、ソフトウェア開発、澱粉詰め替え)、アクアクララ六甲事業
- 環境関連技術
 - 炭素材事業
 - キャパシタ用活性炭製造技術(蓄電デバイス用部材供給による省エネ貢献)
 - 使用済活性炭の再生利用(活性炭再生技術)
 - 精密洗浄事業
 - 半導体・フラットパネルディスプレイ関連装置の精密洗浄(装置部品の再生利用技術・除膜剥離物の再資源化)
 - 総合サービス事業
 - 不動産事業：遊休地を利用した太陽光発電 ソフトウェア事業：各種自動化システム等
 - 澱粉詰め替え事業：澱粉詰替及び保管時のフードディフェンス
 - 分析事業
 - 環境分析技術：大気分析、水分析、騒音測定、振動測定及び作業環境測定等
 - VOC分析技術：住空間(居室内、車室内など)の揮発性有機化合物分析
 - 環境調査・コンサル：環境アセスメント対応、土壌分析等
 - アクアクララ六甲事業
 - 宅配水のリターナブルボトル

RC活動トピックス

■熊本分析センター 中学生の環境学習

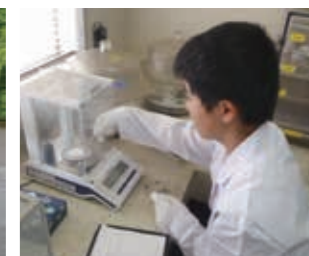
2020年10月に旧日本合成グループから当社に加わった熊本分析センターでは15年前から宇土市と協力して、中学生を対象にした環境学習に取り組んでいます。

河川の採水から分析、結果の考察までの体験を通じて、子供たちが環境問題に意識を高められるよう応援を行っています。残念ながら2020年はコロナ禍で実施できませんでしたが、対策を講じ再開を目指しています。

また、環境学習とは別に、加古川分析センター同様、市内中学校の職場体験先となり子供たちの受け入れを行っています。



採水及び透視度測定



実験室での分析風景

■加古川事業所 熱中症対策

2年続けて熱中症が発生した加古川事業所では、熱中症ゼロに向けての取り組みを進めています。

- 暑熱環境対策:活性炭工場の暑熱マップを作成するとともに建屋上方へ熱気を排出することによりWBGT値(暑さ指数)の低減を進めています。また、クールシャツやファン付作業着等、作業に合わせた対策を行っています。
- 体調管理:作業前の給水と体調確認を徹底すると共に、分析センターでは主任から現場作業員への電話の呼び掛けなど、きめ細かな作業管理を行っています。
- 対策を事業所内に水平展開し、熱中症ゼロの3A(安全・安心・明るい)職場実現を目指しています。



大阪化成株式会社

- 本社 大阪府大阪市西淀川区中島2丁目6番11号 TEL 06-6474-3621(代表)
- 営業本部 大阪市中央区伏見町4丁目1番1号(明治安田生命大阪御堂筋ビル7F) TEL 06-6474-5491
- 代表者 取締役社長 安丸 純一(やすまる じゅんいち)
- 設立 1946年(昭和21年)4月
- 資本金 6000万円
- 事業内容 炭素製品事業、生活環境製品事業、特薬事業、生物検査・評価試験受託業務
- 環境関連技術
 - 薬用ハンドソープ用途の殺菌剤の製造(抗菌剤製造技術)
 - 繊維用抗菌加工剤・抗ウイルス加工剤・防カビ加工剤の製造(抗菌剤・抗ウイルス剤・防カビ剤製造技術)
 - 防ダニ・防虫加工剤の製造(忌避剤製造技術)
 - 動物用消毒・殺菌・殺虫剤の製造(動物医薬品製造技術)

RC活動トピックス

■ RCの日

大阪化成では毎月最終週の金曜日を『RCの日』と定めています。RCの日の午後は生産活動を停止し、各職場の3S活動や従業員を一堂に集めた全員教育、各部署の教育・

■ CAS運動 Step-II始動!

大阪化成では、2015年度よりRC活動の基盤運動としてCAS運動を展開しています。大阪化成で働くすべての人がこの運動をベースに心をつなげてRC活動を推進するために3つの事項(C:コミュニケーション、A:あいさつ、S:清掃)を活性化して推進してきました。2020年度からは、大阪化成のRC活動を更にレベルUPするためにStep-Iを発展させたStep-IIを始動し、さらなる活動の活性化に取り組んでいます。

CAS Step-I

C: コミュニケーション、A: あいさつ、S: 清掃

CAS Step-II

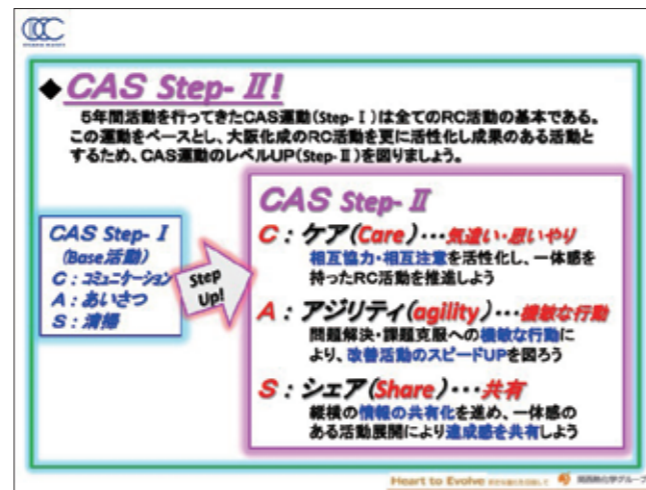
C: 気遣い・思いやり、A: 機敏な行動、S: 共有

■ 特徴的なRC活動事例(製造部)

MPC-1ニーダー工場では、販売好調による1日の中間品の増産(3バッチ→4バッチ)から、作業時間延長に伴う時間外労働が発生したため、定時内4バッチ生産を目的とした作業時間の短縮に取り組みました。

現状把握から、設備の蒸気洗浄時間にムダがあることが分かり、洗浄時間短縮のため、試行錯誤して蒸気吹込み部分の設備改善を行いました。当初目標には僅かに届かなかったものの、蒸気洗浄時間・残業時間の短縮に加え、蒸気使用量節減にも成功し、製造コストを削減できました。

訓練の開催などを行ない、RC意識の維持・向上に努めています。

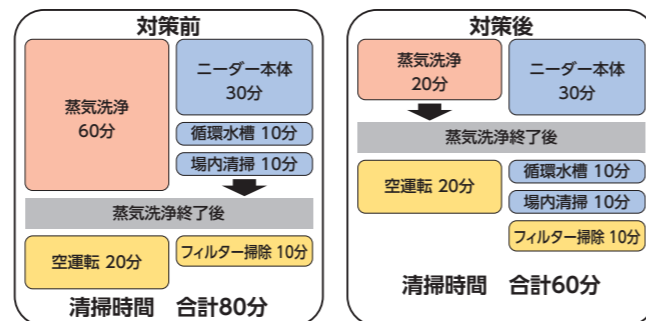


CAS運動活動方針

現状の把握 4バッチ生産時のタイムスケジュール



効果の把握 対策前後の比較



尼崎ユーティリティサービス株式会社

- 本社 兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地 TEL 06-6416-0164(代表)
- 代表者 取締役社長 井上 朋彦(いのうえ ともひこ)
- 設立 1993年(平成5年)10月
- 資本金 1億円
- 事業内容 電気・蒸気供給事業
- 環境関連技術
 - 高効率ガスタービンコージェネレーション発電(発電設備運転技術)
 - 低圧蒸気を活用した「スチームスター」による発電(発電設備運転技術)

RC活動トピックス

■ 危険予知能力の更なる向上

関西熱化学グループで推進中のRC方針・重点項目として、「一人ひとりの危険予知能力の把握」があります。尼崎ユーティリティサービスでは現状を把握し更なる向上を目指す為、個々人の課題を明確にして取り組んでいます。20年度は作業及び交通の危険予知に関して取り組みました。改善のサイクルを職制との間で実施し、全員がB評価以上を達成できました。21度は更に一歩進めて、個人の行動特性をマッピング解析した手法を準備中で、今後も危険予知能力を緩めることなく維持、向上させていきます。

4ラウンドKYT(2020年度)



2021年度危険予知訓練方法

〈訓練・実施〉

- ①個人が、実技シート(作業・交通)、KYTレポート用紙で4RKY実施(作業者になり切り作業状況を理解する)
- ②各人が、自分のKYTレポートを見て、自己チェック表の各項目をチェック

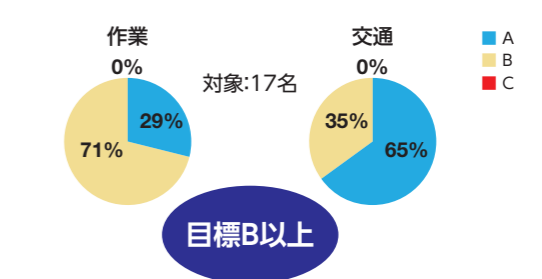
〈評価〉

- ①安全担当・職制が提出されたKYTレポートを確認、コメント
- ②安全担当が評価判定(A・B・C・D)

〈フィードバック〉

評価結果を職制よりフィードバック

危険予知能力個人評価集計結果(2020年度)



2020年度目標
 全員が評価レベルB以上を達成できた。

■ ガスエンジン及び付帯設備の撤去

大口顧客との契約解消に伴い、求められる期間内に安全に大型設備を撤去する必要が発生しました。運転業務を安定に操業する事と並行して、大型でかつ多岐に渡る半年に及び工事を実施しました。関西熱化学・尼崎事業所への引き渡しを、当初の計画通り21年2月末までに完了しました。関係頂いた工事業者の方々も含めて安全に大きなトラブル無く完遂する事が出来ました。



Responsible Care 2021

レスポンシブル・ケア報告書

お問い合わせ先

関西熱化学株式会社 RC推進会議事務局

TEL : 06-4300-5366 (CSR推進部)

FAX : 06-6491-9681



この印刷物は環境への配慮のため、世界の森林資源の責任ある利用を保証している[FSC®認証紙]、および植物油インキを使用しています。

表紙について

さまざまな色の蝶々は多様性の尊重、羽ばたく姿は躍動感を表しています。
共に新たな時代へ邁進していくイメージで表紙をデザインしました。